

鹿児島県から多獲されたアジ科魚類の稀種マテアジ

伊東 正英*・高山真由美*・原口百合子**
松沼 瑞樹***・本村 浩之**

Masahide ITO, Mayumi TAKAYAMA, Yuriko HARAGUCHI,
Mizuki MATSUNUMA and Hiroyuki MOTOMURA :

A large number of a rare fish, *Atule mate* (Teleostei : Perciformes : Carangidae),
collected from Kagoshima, Japan

はじめに

マテアジ *Atule mate* (CUVIER in CUVIER and VALENCIENNES, 1833) は、アジ科マテアジ属 (Carangidae : *Atule*) に分類される 1 属 1 種の魚類である。本種は、セイシェル諸島、インド、インドネシア、およびニューギニアから採集された標本に基づき記載された。現在、本種は南アフリカからハワイ諸島までのインド・太平洋域に広く分布することが知られている (SMITH-VANIZ, 1999) が、日本からの記録は極めて少ない。

SUZUKI (1962) は、三重県津市の魚市場から得られたマテアジ 1 個体を報告したが、この個体が日本沿岸で漁獲されたものかどうかについて確認できなかったこと、さらにはその後日本産の標本に基づく確実な記録がなかったことから、本種が日本沿岸に分布する可能性は低いと考えられていた (SENOU, 2002)。しかし吉野・吉郷 (2003) は、沖縄県八重山諸島産の 1 個体をマテアジの日本からの 2 番目の記録として報告し、日本での本種の確実な分布が確認された。その後、本報告の第 1 著者伊東正英は、2005 年 10 月 2 日に鹿児島県南さつま市笠沙町沖に設置された定置網からマテアジ 1 個体を採集した。この個体は本種の日本からの 3 番目の記録として報告された (宮原ほか, 2006)。

このように、マテアジはこれまで日本から 3 個体のみが報告されているに過ぎず、稀種であると考えられていたが、2006 年 10 月 14 日から 11 月 10 日にかけて、上記 3 番目の個体が採集された場所で新たに 14 個体のマテアジが得られたのでここに報告する。また、本種の胸鰭の長さと同様の横帯数の変異について若干の考察を行った。標本は全て鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に所蔵されている。生鮮時 (固定前) の標本は全て撮影され、

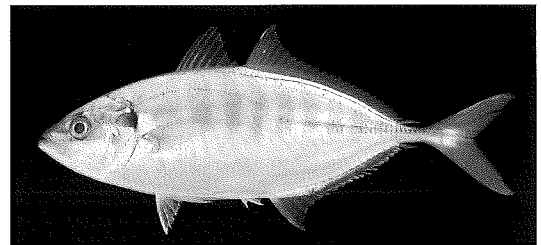


図 1 マテアジ, KAUM-I. 974、標準体長 179.7 mm。胸鰭が長く、体側の横縞が少ない個体

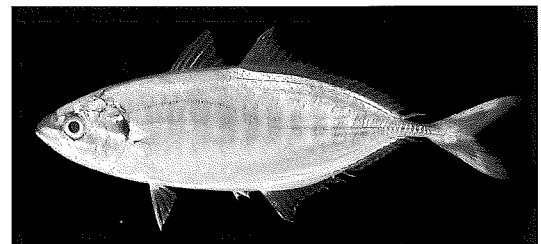


図 2 マテアジ, KAUM-I. 973、標準体長 156.6 mm。胸鰭が短く、体側の横縞が多い個体

画像は KAUM 魚類画像データベースに登録されている。

マテアジ *Atule mate* (CUVIER, 1833)

(図 1, 2)

標本 : 14 個体, 標準体長 149.1 - 179.7 mm - KAUM - I. 967, 1 個体, 標準体長 158.7 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町松島沖北東部 (31° 25.06' N, 130° 12.32' E), 小型定置網, 水深 20 m, 2006 年 10 月 16 日, 伊東正英。KAUM - I. 968, 1 個体, 標準体長 161.0 mm, 2006 年 10 月 26 日, 採集日以外のデータは KAUM - I. 967 と同じ。KAUM - I. 969, 1 個体, 標準体長 149.1 mm, データは KAUM - I. 968

* 〒 897-1301 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦 718 E-mail : itokeno@po3.synapse.ne.jp

** 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 E-mail : motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

*** 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部水産生物・海洋学分野

と同じ。KAUM-I. 970, 1個体, 標準体長161.1 mm, データはKAUM-I. 968と同じ。KAUM-I. 971, 1個体, 標準体長158.4 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側 (31° 25.44' N, 130° 11.49' E), 小型定置網, 水深27 m, 2006年10月26日, 伊東正英。KAUM-I. 972, 1個体, 標準体長167.5 mm, 2006年10月27日, 採集日以外のデータはKAUM-I. 971と同じ。KAUM-I. 973, 1個体, 標準体長156.6 mm, データはKAUM-I. 972と同じ。KAUM-I. 974, 1個体, 標準体長179.7 mm, 2006年10月14日, 採集日以外のデータはKAUM-I. 971と同じ。KAUM-I. 1002, 1個体, 標準体長151.8 mm, 2006年10月25日, 採集日以外のデータはKAUM-I. 967と同じ。KAUM-I. 1003, 1個体, 標準体長166.8 mm, データはKAUM-I. 1002と同じ。KAUM-I. 1092, 1個体, 標準体長166.1 mm, 2006年11月2日, 採集日以外のデータはKAUM-I. 971と同じ。KAUM-I. 1093, 1個体, 標準体長160.5 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦高崎山地先 (31° 26.00' N, 130° 10.05' E), 大型定置網, 水深36 m, 2006年11月8日, 片野坂龍二。KAUM-I. 1261, 1個体, 標準体長154.2 mm, 2006年11月10日, 採集日以外のデータはKAUM-I. 971と同じ。KAUM-I. 1262, 1個体, 標準体長157.1 mm, データはKAUM-I. 1261と同じ。

記載: 背鰭は8 + 1棘23-24軟条。胸鰭は23-24軟条。腹鰭は1棘5-6軟条。臀鰭は2 + 1棘19-20軟条。鰓耙は39-46本。体は長楕円形で側扁。吻は突出。背縁と腹縁は同程度膨らみ, 第2背鰭起部で最も体高が高い。**生鮮時の色彩:** 体上部は鮮やかな黄緑色, 下部は銀白色。体側中央には9-14本の緑色横帯。第1背鰭は透明で第1-3棘は黄色味をおびる。第2背鰭は黄色で前部上端は灰白色。吻端から眼下を通り主鰓蓋骨まで1本の白色帯が走る。胸鰭は黄色味をおびる。尾鰭は黄色。腹鰭と臀鰭は白色 (臀鰭は固定後基底と下縁の中間に黒色を帯びた細い縦条が現れる)。鰓蓋後端に黒色斑がある。**分布:** 南アフリカからハワイ諸島までのインド・太平洋域に広く分布する (SMITH-VANIZ, 1999)。日本での記録は三重県津 (SUZUKI, 1962), 沖縄県八重山諸島 (吉野・吉郷, 2003), 鹿児島県南さつま市 (宮原ほか, 2006; 本報告)。

備考: 本標本は, 眼の前後の脂腺がよく発達し, 脂腺開口部が瞳孔上にわずかに開くこと, 第2背鰭と臀鰭の最後の軟条がその直前の軟条から離れることなどからマテアジと同定された (SMITH-VANIZ, 1999; SENOU, 2002; 吉野・吉郷, 2003; 宮原ほか, 2006)。SMITH-VANIZ (1999) や宮原ほか (2006) は, 本種の特徴の一つとして, 胸鰭の後端が側線直走部の始部を越えることを挙げているが, 今回得られた14標本のうち13標本は胸鰭の後端が側線直走部の始部に達していなかった。また, SMITH-

VANIZ (1999) は本種の体側にみられる灰色横帯の数を9本か10本とし, SENOU (2002), 吉野・吉郷 (2003) および宮原ほか (2006) は約10本と記載しているが, 上述の胸鰭が短い13標本は10-14本であった (この横帯数はGUNN (1990) がオーストラリア産の標本に基づいて報告した13-16本という値に近い)。残りの1標本 (KAUM-I. 974, 標準体長179.7 mm) は, 胸鰭の後端が側線直走部の始部を越えること, 体側横帯が9本であることから, GUNN (1990) を除く従来の本種の報告とよく一致する。現在マテアジ *Atule mate* と同定されているタクソンには複数種が含まれている可能性があり, 今後の詳細な検討が必要である。

謝 辞

マテアジの標本を提供して下さった丸世大吉漁業生産組合の中尾雄作氏, 松島定置網漁業の野上義文氏, および笠沙町漁業協同組合自営定置網漁業の皆様へ深く感謝する。標本収集に便宜を図って下さった笠沙町漁業協同組合販売部長の田神成太氏, 標本の作製・登録作業を手伝って下さった鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの北 奈美氏, 大森純子氏, 荻原豪太氏, および目黒昌利氏の諸氏にお礼申し上げる。

引用文献

- GUNN, J. S. 1990: A revision of selected genera of the family Carangidae (Pisces) from Australian waters. Rec. Aust. Mus., Suppl., (12), 1-57.
- 宮原 一・伊東正英・矢部 衛. 2006: マテアジ *Atule mate* の鹿児島からの記録. 日本生物地理学会会報, 61, 81-84.
- SENOU, H. 2002: Carangidae. in T. NAKABO (ed.) Fishes of Japan with pictorial keys to the species. English edition, Vol. 2, 791-808, 1547-1549. Tokai University Press, Tokyo.
- SMITH-VANIZ, W. F. 1999: Carangidae. in K. E. CARPENTER & V. H. NIEM (eds.) FAO species identification guide for fisheries purposes. The living marine resources of the western Central Pacific. Bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangidae). Vol. 4, 2659-2756. FAO, Rome.
- SUZUKI, K. 1962: Anatomical and taxonomical studies on the carangid fishes of Japan. Rep. Fac. Fish., Pref. Univ. Mie, 4 (2), 43-232.
- 吉野哲夫・吉郷英範. 2003: マテアジの日本から2番目の記録. I. O. P. Diving News, 14 (4), 2-4.